

私と前世と発達障がいと

〜我家に宇宙人がやって来た!〜



前世セラピスト

心愛

この本を手にとつてくださつて、本当にありがとうございます。きつと魂の歴史の中であなたとのご縁があつて、またこうしてここで再会できたのだと思います。そう思える自分の感性を私は愛おしく思います（笑）。

この本では、前世セラピストとしての私と、発達障がいの子を持つ親としての私を、照らし合わせながら解説していこうと思います。

今、世間では発達障がいについていろいろと取り沙汰され、「変わり者」「我が道を行く人」「コミュニケーションがとれない人」など様々な印象が根強くあります。

普通でない彼等として枠組みされつつあるようにも感じます。

そんな私がセラピストの立場から、見えるもの、感じるもの、発達障がいを持つひとりひとりの魂の高貴さと高価さを、皆さんにお伝えしていけたらと思います。

私自身、現在は目から入る映像を通して、前世セラピストをさせていただいております。

幼い頃から勘が鋭く、人には見えないものが見える、感じる、今でいうスピリチュアル系な人でした。

学生の頃の授業中での出来事です。

背が高い方だった私は、席はいつも後方でお友だちの背中を見ながら授業を受けていました。

授業中、いきなりなんの前ぶれもなく、クラスメイトの背中あたりから発光される光に悩まされ、その眩しい光で黒板が見えず困ることも多々ありました。「○○ちゃんの背中オレンジ色に光ってるね」と休み時間に何気なく話すと「何言ってるの？ 頭大丈夫？」と変人扱いをされ、私には見えるのに他の人には見えないんだ……と、悩み苦しんだこともありました。

そんな中、前世オーラ鑑定で有名な江原さんの著書を読み、江原さんもこのような経験をされていたと知った時、私と一緒に！ と感動したのを覚えています。

私は生まれつきの右目の弱視があり、視力は形がわかる程度しかありません。

その見えない右目から入ってくる感じとる映像が、実は前世のその人の姿であり様々な姿、形を通して見えるのだということの後気づくまでに、長い年月を要してきました。

人と話をする時、相手の目を見ることが怖かった内向的な私が、今こうして前世からのメッセンジャーとして今世を生きる方々への魂の言葉をお伝えしていることも不思議に思います。

その前世セラピストの私の視点から見た発達障がいを持つ方々への魂について、役割について、生き

方についてお話を進めていきたいと思います。

この本を通して、発達障がいへの偏見、ご家族が抱える悩み、発達障がいに関わる全ての方々が生きてみようかな？ と前向きになれるように心からのエールを送りたいと思います。

心愛（ここあ）